

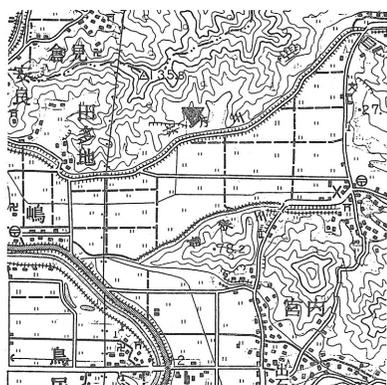
兵庫・砂入遺跡

すなわち

- 1 所在地 兵庫県出石町袴狭字丸谷
- 2 調査期間 一九九三年(平5)一〇月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 大平 茂・西口圭介・藤田 淳・鈴木敬二
岡 昌秀

5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・祭祀遺跡

- 6 遺跡の年代 縄文時代前期～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(出石)

今回の調査地点は小野川

砂入遺跡は豊岡盆地の東端に位置し、西流する小野川(六方川)の旧河道・氾濫原に展開する。調査は小野川放水路建設に伴うもので、一九八七年度以降の数次の調査によって、多数の木製祭祀具・農具などの出土、祓所遺構や道路状遺構の検出などの成果をみている。

右岸側で、一九八七年度の全面調査地点(『木簡研究』一〇)の対岸にあたる。また、一九八八年度に祓所遺構や道路状遺構を検出した地点(『木簡研究』一二)は対岸の約一〇〇m西方に位置する。また禁制木簡が出土した袴狭遺跡(『木簡研究』一四)は約五〇〇m南方に位置している。

今回の調査では四時期の遺構面と古墳時代前期の包含層の調査を行なった。第一面は平安時代後半から鎌倉時代、第二面は平安時代中頃から後半、第三面は奈良時代末から平安時代初頭、第四面は縄文時代前期の時期が与えられる。

このうち、第二面では水田・道路状空間・井戸・噴砂を検出している。道路状空間は一部路肩に板材による土留めを施している。井戸は横板組隅柱どめで、地震によって倒壊した状況で検出された。

出土した木簡八点及び墨書のない木簡状木製品一点は全てこの第二面を被覆する洪水砂内より出土している。この他、人形・馬形・田下駄・井戸材・曲物、銅製の帯金具や刀子、墨書土器・緑釉陶器などが出土している。

第三面では道路状空間・水田・溝・柱穴を検出した。道路状空間は山の斜面をカットして造ったもので、部分的に溝を伴い、約一・五mの幅で北北東へ走行している。第二面において検出した道路状空間は、第三面のを継続して使用したものである。溝内より銅製品一点が多量の土器に混じって出土している。

(2)は「蘇民将来」呪符木簡であるが、(3)についてもその可能性がある。「蘇民将来公」の木簡は兵庫県下では森北町遺跡『木簡研究』

一二)に出土例がある。

(4)は片面の左行の墨が良く残る。隷書風の書体で文字自体は鮮明であるが、意味は不明である。

以上八点の木簡以外に、墨書のない木簡状木製品一点(長さ一五六mm幅三八mm厚さ六mm、○三九型式)が出土している。

これら九点は約一五m四方の範囲内から出土した。立地的には小野川へ向かって南向きに開く谷の肩部からの出土である。木簡は小野川上流から漂着したのではなく、谷の上部即ち調査地点の北もしくは北西の、恐らく至近の場所から流れてきたものと推測される。釈読については奈良国立文化財研究所の綾村宏氏・館野和己氏・寺崎保広氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』一四(一九九四年)

(西口圭介)